

ぐんまこどもの国児童会館

にこっと通信

nicotto tsu-sin!



にこっとちゃん

2013.1.15

第40号

発行／公益財団法人群馬県児童健全育成事業団



ペットボトルキャップで
作ったよ!



～10月21日(日)群馬県内児童館フェスティバル～

あけましておめでとうございます

本年もみなさまのご来館を、心よりおまちしております!

ぐんまこどもの国児童会館 スタッフ一同

★ プラネタリウム新番組 ★

一般番組

「コブクロ 流れ星に願いを」

夜空に流れる一筋の光になぜ人は願いをかけるのでしょうか。美しく降り注ぐ流星群、その秘密を解き明かします。宇宙から見る神秘的な流星やコブクロのハートフルな曲に包まれながら、大切な人と夜空を見上げてみませんか。

日時

平成24年12月8日(土)

平成25年3月3日(日)

平日 15:30～

土日祝・長期休暇 13:00～、15:00～



「プラネタリウム 宇宙兄弟 一点のひかり」

「兄とは常に弟の先を行ってなければならない」宇宙へ行くことを誓った、あの夏。あの高台を吹き抜けた、二人とあのコの物語。

＝同時開催＝

プラネタリウム番組上映記念「宇宙兄弟」複製原画展

日時

平成25年3月9日(土)

平成25年6月9日(日)

平日 15:30～

土日祝・長期休暇 13:00～、15:00～



©小山田誠・講談社・読売テレビ・A-1 Pictures
特別協力 JAXA

多世代交流ひろばスペシャル

こま、ベーゴマ、ねんどのカタあそび、紙芝居、竹馬、あやとり、お手玉など、楽しい遊びがいっぱいです。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、そして子どもたち、家族み～んなで遊びにきてね!!



日時 2月11日(月)

10:00～15:00(ねんどのカタあそび 受付14:30まで)

紙芝居 13:30～/14:30～(各回約30～40分)

会場 多目的ホール

講師 あそびの学校(ねんどのカタあそび・紙芝居)

参加費 ねんどのカタあそびのみ100円

休館日

1月…15日(火)・16日(水)・21日(月)・28日(月)

2月…4日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(月)

3月…4日(月)・11日(月)・18日(月)

★春休み中の月曜日は休まず開館します

お問い合わせ・お申し込み



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町 480

TEL. 0276 (25) 0055 FAX. 0276 (25) 0059

URL <http://www.kodomonokuni.or.jp/>

「子育てなんでも相談室」

子育ての“どうしよう”、話してみませんか

児童会館で行っている「こども相談室」をご紹介します。

従来から行っている、お母さん達の子育ての悩みや不安を電話や来館によってお話を聴く「こども相談室」と、今年度から始まった臨床発達心理士による「子育てなんでも相談室」があります。

今回は、「子育てなんでも相談室」の相談員、高崎健康福祉大学 人間発達学部子ども教育学科准教授 宮内 洋先生にお話を伺いました。



Q. 相談員として心掛けていることはありますか

A. 落ち着いてお話ができる環境を心掛けています。

Q. 児童会館から相談員の依頼を受けてどう思いましたか

A. とても良い試みだと思い、そのお手伝いができるのなら、即答で引き受けました。半年が経過しましたが、とてもやりがいのある仕事でがんばっています。

Q. 先生が学校で教えていることは何ですか

A. 学生達に、発達心理学と臨床心理学を中心に教えています。高崎健康福祉大学の他に、群馬県立女子大学や前橋工科大学でも臨床心理学やカウンセリングを担当しています。

Q. 先生が心理士を志したきっかけは何ですか

A. 幼少期より人間が不思議で不思議で仕方なく、心理学の本を読みあさっていました。気付いたら、今の仕事をしていました。

Q. 最後に子育て中のお母さん達にメッセージを

A. よく言われるように、日本は核家族化が進み、親と子どもだけのご家庭が多くなっています。そうすると、以前のような三世同居のご家庭では当たり前であった、子育てで困った際、経験者に気軽に尋ねる環境が減っており、誰にも相談できずに困っている親御さんが増えていると言われています。

群馬では、三世同居のご家庭もそれほど珍しくはないのですが、一緒に生活していても、子育てについて尋ねづらい、あるいは悩みを相談しづらいという親御さんもいらっしゃることでしょう。

周囲の誰にも相談しづらいという方のために、この児童会館では無料の相談の場を設けております。相談したとしても、笑われることも、非難されることも、批判されることも決してありません。このような場はこの社会ではほとんどないでしょう。安心してご相談ください。当然のことですが、守秘義務がありますから、ご相談内容については、誰にも知られることもありません。



「子育てなんでも相談室」これからの日程

日 時 1/17(木)、2/14(木)、3/14(木)

①13:30 ②14:10 ③14:50

相談員 宮内 洋(高崎健康福祉大学)

申込方法 事前申込のため、ご希望の日時をお電話にてご予約ください。



「こども相談室」のご案内

日 時 毎週 火曜日～土曜日(休館日除く) 9:30～16:30

相談員 児童会館職員

申込方法 来館あるいは電話にてご相談ください。

子育てで悩んだり不安な時は、お話をするだけでほっとすることもあります。お気軽にお電話ください。



10/26(金)いきいきママ講座 「おやこでTRY、フラダンス」

10月26日(金)のいきいきママ講座は、フラ講師の嵐莉沙先生をお迎えして51人の親子がフラにトライしました。

まずはハワイの音楽が流れる中、ストレッチを行います。フラは初めて、というママたちが大半で最初は緊張気味の様子でしたが、ゆるやかな曲調に合わせて体を動かしていくうちに表情の方も徐々にほぐれていくように見えます。準備運動の後はいよいよフラ独特の動きにチャレンジ。フラの基本ステップ「カホロ」と「ヘラ」に挑戦です。曲に合わせてくり返すうちに、ぎこちなかった動きがだんだんと板についてきます。「口角を上げて、笑顔をつくって！」という先生の言葉に、ママたちの表情が一気に華やきます。

動きひとつひとつに意味があり、手話の要素が含まれるというフラ。ステップ

に加えて魚、波、地引き網を引く、などの振りも覚えて「フキラウソング」を一曲通して踊ります。終盤になるとママたちの動きもすっかり様になって、自然と笑顔がこぼれます。軽快なリズムに、一緒にいる子どもたちも嬉しそうにはしゃいでいました。

「子どもが賑やかでも、大歓迎。フラは“楽しい”が一番大切。」と話す嵐先生。講座を終えたママたちはその言葉通り「楽しかった」「子どもと一緒にできるのが嬉しかった」「またやってみたい」と口々に話してくれて、そのリラックスした笑顔がとても印象的でした。



11/24(土)わくわくパパ講座 「パパと作る簡単お野菜手料理～ママをびっくりさせちゃおう～」

11/24(土)、父子ペア12組がお野菜料理作りに挑戦しました。教えてくれたのは野菜ソムリエ・ベジフルビューティーアドバイザーの茂木曜子先生。野菜や旬についてのお話の後、いよいよ実際に料理スタート！最初はどこかぎこちなかった(?)パパと子どもたちも調理を進めるうちに、抜群のチームワークを発揮して楽しそうに作業していました。作ったのは「コロコロてまりずし」

「かんたん野菜づけ」「カボチャとくるみのサラダ」の3品。全て包丁を使わず、手やピーラーで作れるレシピを用意してくれた先生は「子ども自身が料理に参加できて“楽しい”“おいしい”と感じてもらう事が一番大切。体験する事が食への興味につながる。」とおっしゃっていました。完成した料理は全員完食！皆さん口を揃えて「おいしかった」「家でもやってみます」とお話してくれました。大好評だったレシピの中から1品ご紹介しますので、皆さんもぜひお試しください。



「カボチャとくるみのサラダ」

〈材料(2人分)〉

カボチャ1/8 塩 コショウ…少々 クリームチーズ くるみ ハチミツ…お好みで

- ① カボチャは皮のついたままラップをして、電子レンジで皮につまようじがスッと通るまで加熱する。(約3～5分)
- ② 熱いうちにボウルに入れ、クリームチーズもいっしょに入れて、フォークの背であらくつぶしながら混ぜる。
- ③ くるみはピーラーで皮をむいて細かくする。
- ④ 塩、コショウ、ハチミツで味をととのえてから、最後にくるみをあわせてひとまぜして、できあがり。

ハチミツとカボチャ(ビタミンC)と一緒に摂る事でお肌のシミ予防に効果があるそうですよ！



— 入選作品 —

ぐんまこどもの夢大賞

第21回

「ぐんまこどもの夢大賞」は、児童文化の振興を図る目的で、群馬県と当児童会館の運営主体である公益財団法人群馬県児童健全育成事業団の共催で毎年行っています。18歳未満を対象とした絵画と、小学生以上18歳未満を対象とした童話の2部門を夏休みに合わせて募集を行い、今年も絵画7,522点、童話463点というたいへん多くの皆様から作品をいただきました。

審査の結果、絵画は最優秀賞3点、金賞16点、銀賞24点、銅賞40点、奨励賞105点が、童話は最優秀賞1点、金賞3点、銀賞5点、銅賞6点、奨励賞9点が入賞しました。

ここでは、最優秀賞を受賞したみなさんの作品とインタビューを紹介します。

インタビュー内容

- ①受賞を知ったときの気持ち ②制作時間
- ③どうしてこの作品をかこうと思ったか ④次は何をかきたい？
- ⑤将来の夢 ⑥保護者のことば

絵画

最優秀賞

「海の中にレストランをつくりたい」



富士幼稚園 4歳

やしま ゆう
矢嶋 優さん



- ①うれしかった。
- ②みんなで幼稚園で描いたので分からない。
- ③家族で海の中のレストランにいる絵を描きたかった。お兄ちゃんは水泳が得意なのでまわりで泳いでいる。
- ④お花
- ⑤プリキュアビューティー
- ⑥びっくりしました。

最優秀賞

「宇宙一のパティシエになりたい」



邑楽町立中野小学校 2年
ね だち
根立すみれ さん



- ①うれしかった。
- ②2日かかった。1回目はケーキさんの文字の色が気に入らなくて、描き直した。
- ③宇宙に行ってお菓子を作りたいから。
- ④う〜ん…(まだ考え中の様子でした。)
- ⑤宇宙飛行士のパティシエ
- ⑥びっくりしました。描き直しをしたので、良かったと思いました。宇宙少年団の団員で活動もしています。プラネタリウムも好きです。

最優秀賞

「ぼくが乗りたい消防車」



群馬大学教育学部附属小学校 6年
た むら な お ゆ き
田村 直之 さん



- ①とても驚いた。
- ②1週間くらいかけて、じっくり描いた。
- ③東日本大震災の時の映像を見て、消防車にヘリコプターがついていれば…と、この絵を描こうと思った。
- ④まだ決めていない。
- ⑤消防士になりたい！
- ⑥(ぐんまこどもの夢大賞には)1年生の時から応募していて今回で6回目。これまで1度も賞を頂いていなかったの、今回受賞できて良かったです。本人が一番驚いていました。

最優秀賞

「少女は泳ぐ」

玉村町立玉村中学校 3年

はら あずさ
原 梓 さん

- ①おーっ!! (驚いた)
- ②夏休みに入ってから、半月ぐらいで仕上がりました。
- ③金魚を飼育しているので、それを入れたかった。入れたい表現(フレーズ)を考えてから、お話にしていた。
- ④童話ではなく小説として書いてみたいと思う。
- ⑤クリエイターなど、何かをつくり上げていくお仕事に就きたい。
- ⑥3年連続の受賞となりました。次は芥川賞を目指して頑張ってもらいたいです(笑)。



「少女は泳ぐ」

玉村町立玉村中学校 3年 原 梓

小さな頃に川で溺れたことがあった。

鮮明に覚えている。土曜日、脳天を焼く強い日差しのお昼過ぎ。学校帰り、その暑さに頭がくらくらした。六つだったあたしは、家までの道のりにちょうど沿ってある土手を、思わず駆け下りる。おニューのサンダルを河原に置いて、太陽に熱されてとけてしまいそうな小石の上をつま先で走った。特になにか考えていたわけではない。ただ、なめらかに光る水面を見て、その流れの一部になりたいと思ったのだ。

水に身体をまかせると、全身の力がすべて抜けて、その味わったことのない気持ちよさにうっとりしてしまった。息苦しさより、サカナになったような自分に対しての喜びが強かったのだろう。目をつむってしまいそうになった。物事すべてを深く考える必要のなかった、あの頃だったからできたことだろう。その後、なんとか見つけられて助けられたのだが、あのままサカナになっていたらいつか海に渡って、空を飛んで、また母に会えたのかなあと何度も思ったことがある。違う顔のつくりをした弟ができた蒸し暑い夜に、少しだけまたそう思った。

差し込んだ光がカーペットを白く染めるのを、薄く開いた目でしばらく眺めてからベッドをはい出た。最近は寝不足が続いている。新しい家族がいやなわけではなく、ただ大きく変わった環境に対応しきれないのだ。

フツーに靴をそろえて、フツーに授業を受けて、フツーに窓の外を眺める。フツーの中をふわふわ浮遊している自分は、水槽のなかの金魚に似ていると思った。決まった枠のなかで生きている。たまに、規則的すぎる生活がいやになる。今日見たものが昨日見たものの影に重なると、どこ

か虚しい。玄関にいる二匹の金魚も、こんな気持ちでいるのだろうか。

「おはよう、カイくん」

小ざれいな格好をした女の人についてきたのは、背丈の小さな男の子だった。白い顔に映える真っ黒い癖毛が特徴的だ。あまり食卓の会話にも参加しないどこか大人びた子で、あたしはホッとした。一人っ子のあたしは、年下の子に少し苦手意識があった。小さな子と話すと、接し方ばかり気にして交流がうまくとれない。彼ならそんなことはないであろう。きっと彼も、子ども扱いを嫌がる。あたしはあえて、家の中では誰にでも同じ口調で話すことにした。

「・・・おはよう」

小さな声でそう挨拶を交わすと、彼はすぐに朝食を食べ終えてランドセルを背負った。人見知りだなあと思いつつ、きちんとそろえられた使用済みの箸が目がいって、思わず笑みがこぼれた。こういうところがカイくんの良いところだ。人のいい義母に手を振られ、学校へ送り出されたあたしは、心地いい温かさが戻った家がうれしくあった。

二か月ほど経つと、新しい柔軟剤のにおいにも慣れ、寝不足のクマもなくなった。家事に追われることもなくなると、心なしか気持ちに余裕ができ、放課後に友達と遊んだり、なにもせずゆっくりとできる時間が増えたりした。

カイくんとの友好も深まった。彼は熱帯魚が好きという。うちに昔からいる金魚たちを彼がじっと見ているときに、「次は熱帯魚、買おうね」というと、嬉しそうな横顔がゆっくりとうなずいた。

そうすると何だか、フツーに生活している自分に対して、もやもやする部分が大きくなってきた。テレビを見て笑っ

たり、流行りの雑誌を買ってみたり、勿論楽しいのだ。フツに楽しいのだけれど、それでいいのだろうか。あたし今、それだけで充分なのだろうか。

なんとなくそう思い始めたけれど、一日はなにかスゴイことひとつ出来ずにいつも過ぎて、気付けばベッドの中なのだ。はあ。溜息ひとつで、結局眠りに着く。だめだなああたし、なんて、なにもしていないのに思ってしまう。そんな堂々巡りの毎日だ。

「カイが居ないの」

ある夕方、蒼い顔をした義母は、帰宅したばかりのあたしに言った。

「今日は、午前放課のはずなのに、部屋にランドセルも置いていないし、靴も、ないの。学校とか、図書館に電話かけても、居ないの。カイ、まだ町の勝手、も、わかりきっていないのに・・・」

何度か言葉に詰まりながら、義母はうなじを両手でおさえて落ち着こうとしていた。パタパタとスリッパを鳴らしリビング内を行き来するその姿に、あたしの不安も膨らんでいく。父は探しに行っている最中らしい。連絡は、まだない。

「・・・あたしも、行ってくる」

制服のまま、バッグを投げて玄関を出た。

走り出すと、左心房がどくどくした。不安がそれをより大きく感じさせる。どうしよう、カイくんが無事じゃなかったらどうしよう。彼のふわふわした癖っ毛をまだ撫ぜていない。一緒に出かけたりもしていない。熱帯魚、買っていない。折角お互いをわかり始めた関係なのに、弟に姉になり始めたばかりなのに。

少し市街地に出て、居てほしくはないと思いながら中高生がたくさんいる辺りを探した。喧噪が空気を濁している。

いない。よかった。ほっとする気持ちと、見つからない焦りとで苦しくて、胸をおさえながらすぐに来た道の方に足を戻した。

自宅のまわりを再び探す。何分経っただろうか。もう走る力も尽きかけてきたとき。いた。彼は、川岸に座り首をかしげていた。小さな陰が水面に揺れている。

「カイくん・・・」

立ち止まるとメマイがした。胸を大きく膨らませ、空気を思い切り吸い込むあたしを見て、カイくんは複雑な表情で目を細め、あたしの名前を「さん」付けで小さく呼んだ。

無言のまま、呼吸を整え彼の隣に座り込む。気づかなかっただけで、足の裏はじんじんと痛みを帯びていた。あたしの心配した気持ちの強さを表しているようだった。

「川を見てた」

ぼつり、カイくんは言う。群青色が新しい空をつくり始め、久しぶりによく焼けたのに、夕方の空はみるみると遠くの方へ消えていく。切ない気持ちが胸を満たした。

「・・・熱帯魚になりたい、きれいに泳ぎたい、いい子にしていなくても大丈夫になりたい」

途切れ途切れに話しをするカイくんは、顔を真っ赤にして、思い詰めた表情をしていた。

「いい子ってなんだろうね」

ふいに口に出たあたしの言葉に、カイくんもあたし自身も驚いてしまった。けれど、それは続く。自分のなかでもわからなくなっていた部分が、すらすら声になってから、それが胸に染みていく。熱い。一人じゃ見つけれなかったことが、溢れて、きゅんとところを締め付けた。

「フツに学校に行って、フツにご飯食べて、フツに一日が終わる。そんな毎日ってどうしようもないと思う？あたしね、ちっちゃい頃川に飛び込んで溺れたことがあったの。カイくんとおなじでびっくりしちゃった。サカナになろうかと思った。あとで、あすこで死んでいたら亡くなったお母さんに会えたのかなって考えちゃった。でも、それってすごくばかばかしい」

カイくんの瞳がくしゃりと揺れる。あたしは、しっかりと目を合わせてする会話が、こんなにすてきなものだなんて初めて知った。

「フツでいることって、そんなくだらないことだと思う？そんなことないじゃん・・・実際ね、あたしはフツだし、すごく幸せなんだよね、いま」

ずっと触りたかった彼の髪に指をゆっくりと絡めると、彼がしゃくりあげる振動が、悲しみとともに伝わってきた。そうだ、そうやって、嫌な思いは洗い流せばいいのだ。あたしもカイくんも同じだ。ちょっぴり出た涙に、曇った思いを込めて流そう。

大きな幸せと不幸せで凸凹した世界より、小さな不幸せがあってもいつでも笑える世界の方が、あたしは好きだ。平穏を楽しむことも、それはきっと意味のある幸せだ。

それに、きらきらしている熱帯魚ではなく、屋台ですくった金魚だって、十分きれいに泳ぐのだ。・・・恥ずかしいことはなにもない。

「帰ろ、あたしもう、疲れちゃったよ」

そうはにかむと、カイくんはこくりと大袈裟にうなずく。熱い手のひらに、きみは充分いい子じゃないかと思った。手をつないで土手沿いの道を歩いた。

家の前で義母がしゃがみ込んで待っていた。こちらに気づくと、泣いて、怒って、そして「よかった」と何度も言った。アア幸せ。

すごく幸せだ。

いつも通り慌ただしい朝。部活の朝練習に遅れると、カイは箸を投げだして食卓を後にする。「カイ！」逃げるように彼は廊下を走る。もう、いい子のふりをしていた頃が懐かしい。そう思い、思わず笑ってしまう。

「あ、そうだ。熱帯魚、やっぱ買わないからね」

玄関で並んで靴をはく。短くなったカイの髪先がふわりと揺れる。

「えっ、なんで」

「金魚だって十分きれいな」

時々不安になったときに、今でも玄関の二匹を眺めるとうれしくなる。

アア、あたしたちって、毎日をこんなきれいに泳いでいるんだ。



ぐんま☆星まつり2012 「お月見会★月もだんごも」



「ぐんま☆星まつり」は、群馬県内の天文関係の施設や団体が期間内（10月下旬～11月中旬）に、観望会やプラネタリウムに関係するイベントをそれぞれ企画して行っているものです。児童会館では10月27日に「お月見会★月もだんごも」を開催しました。十三夜に合わせた月の観望とプラネタリウム解説、月見だんご作りにも挑戦する盛りだくさんの内容です。

参加してくれた14組35人の親子は、まずだんご作りからスタート。粉をこねたり、まるめたり、ゆでたり、と子どもたちも大奮闘。だんごを初めて食べる、という子もいま



したが、「おいしい!」「思ったより簡単にできる」「家でも作ってみたい」と大好評でした。その頃、肝心の月の様子は…この日は、雲が多くて見えたり見えなかったり。だんご作りを終えた参加者たちは、プラネタリウムを見る予定を変更して、先に外に出る事に。空のご機嫌をうかがいながら望遠鏡をのぞき込みます。肉眼ではおぼろ月に見えても、望遠鏡越しにはくっきりクレーターまで観察できて、感嘆の声も上がっていました。レンズ越しにデジカメ等で撮影にチャレンジする参加者も多く、講師の先生にコツを聞きながらとてもきれいに写していました。中には作っただんごを持ってきて、外で食べる参加者も…これこそ本当の月見だんご!まさに“月もだんごも”楽しめた夜になりました。



児童館ミニフェスティバル



11月3日(土)に富岡児童館、11月10日(土)にふじみじどうかんアリスで、児童館ミニフェスティバルを開催しました。県内の多くの方に児童館の活動を知ってもらうことを目的に、年に2回県内の児童館で実施しています。10月に当館で開催した、群馬県内児童館フェスティバルで実施した工作や参加児童館から提供いただいた「リサイクル工作」の作品、フェイスペインティング、皿回し、カプラなどなど…盛りだくさんの内容で開催しました。中でも、児童館フェスティバルで人気のどろだんごのおっちゃんこと三波川ふるさと児童館「あそびの学校」の山崎先生を迎えての「光るどろだんごの色遊び」は子どもも保護者も夢中になって、最高ランクのマリン

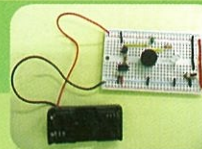
ブルー目指してがんばっていました。富岡児童館は、屋外の広場がないので室内でもできる「ねんどのカタあそび」を行いました。あまり聞いたことがない遊びですが、それもそのはず、幻の遊びと言われていて、今では「カタヤのおっちゃん」は山崎先生だけなんだそうです。み～んな最高ランクを目指して何度もやり直しして、がんばっていましたよ!

さあ来年は、どんなお友達に会えるかな?!今から楽しみです。



ボランティア先生、大活躍!

児童会館には現在92人の登録ボランティアさんがいて、様々な事業をお手伝いしてくれています。普段は“縁の下の方”として陰から支えてもらう活動が多くなりますが、今回は2人のボランティアさんが「先生」として、それぞれ特技を生かして子どもたちやママ向けに講座を開催しました。



11/25(日) 造形教室 「おもちゃドクターと オルゴールを作ってみよう!」

いつも「おもちゃの病院」で、壊れたおもちゃを修理してくれているおもちゃドクターの1人、松本伸二さんがオルゴール作りを教えてくださいました。ハンダごてを使って基盤から製作する、本格的な工作です。当日は他にも頼もしい3人のドクターがお手伝いに入ってくれました。参加した12組の親子からは「普段はなかなかできない作業ができて、良い経験ができた。」という声が聞かれました。ハンダづけにも挑戦した子どもたちには、特製の“ジュニアエンジニア認定証”も渡されました。



11/30(金) いきいきママ講座 「フラワーキーケースをつくらう!」

この日先生を務めてくれた長谷川恭子さんは、普段は託児や受付などで親子向け講座を支えてくれているボランティアさん。実はパッチワーク講師として活躍されています。日頃育児に追われているママたちに、布地を折りたたんでお花の形に縫い上げる可愛いキーケース作りを教えてくださいました。「針を持つのも久しぶり」というママも多かった様子ですが、丁寧な指導のもと針をちくちく動かして、無事完成。そのできばえに、皆とても嬉しそうでした。お子様が小さな頃に縫ったというおくるみなど、長谷川さんのキルト作品も見せてもらい、ママたちはリラックスした時間を過ごせたようです。

